



これからの棚田シンポジウム

恵那市中野方町の坂折棚で、全国棚田（千枚田）サミットが開催されたのが、平成15年9月でした。日本の棚田百選に選定されてから、満14年経過しました。また全国棚田（千枚田）サミット開催から満10年です。この10年目にあたって、過去10年の歩みを反省し、今後の10年、坂折棚田をどのように保全して行くかをテーマとして、棚田博士と言われる、早稲田大学名誉教授 中島峰広先生を迎えて、去る10月26日（土）に「これからの棚田」シンポジウムを実施しました。



この日は、台風26号と27号が接近中で、開催が心配されましたが、当地での影響がなく、予定通り開催することができました。

総司会は森理事、最初に基調講演として「百選から14年 そしてサミットから10年」と題して、中島峰広（現棚田ネットワーク代表）氏のお話ではじまりました。

まず、棚田が宝物であることを気付かせた人は司馬遼太郎であること。「街道をゆく」の竜馬脱藩の道の取材に、四万十川上流の町高知県梶原を訪れたときの「梶原の千枚田も遺産やな」とのことばが契機となって、梶原町長の中越さんが、「棚田は宝だ」とこれを使って町おこしを考えたのが始まりでありました。

ついで、日本棚田百選の中で坂折棚田はどんな位置にあるか、NPO法人 恵那市坂折棚田保存会の活動の問題点について講演されました。特徴として、石積みの棚田は全国的に見て優秀であり、また石積み塾の開催が、評価が高いとの話でした。NPO法人の活動としては、財源を助成にたよっているが、今後は自立すべきであるとのことで、この点は皆様のご理解とご支援を賜りたいところです。

基調講演が終了した後、中島峰広氏、小山瞬二氏、柘植康博氏、鈴木直氏、田口譲氏の各パネラー

に相田明氏のコーディネイターで、パネルディスカッションが行われました。まず、パネラーの自己紹介を兼ねて、それぞれの意見を述べてもらいました。

愛知県新城市四谷棚田代表の小山氏は、鞍掛山の斜面にある420枚3.6ヘクタールの棚田（平成11年に日本の棚田百選に選定）を守るため、保存会の立ち上げを呼びかけたが、全員が反対という状況の中で、何回も話し合いをしたところ、平成9年に「鞍掛山山麓千枚田保存会」を発足。現在では、集落をあげて保存活動が出来るようになった。たゆまぬ



い努力が実をむすんだ。若い人から老年者までが、それぞれの役割を持って、棚田（千枚田）を守ることが大切なことを強調した話をされた。

ついて、棚田に行って来たなだ隊代表の柘植康博氏は、名古屋在住の若い仲間と、棚田応援隊を結成しており、父親出身の地（坂折集落）に墓参りにきているうちに、坂折棚田の素晴らしさを知り、保全の応援をするようになった。棚田オーナーの方々が来ても滞在するところがなくて、実に不便である。一日も早く研修施設を作っていただきたいとの意見を強く話されました。

鈴木直氏は、坂折棚田保存会会長として活躍されていました。現在は、NPO法人恵那市坂折棚田保存会の顧問をされています。保存会発足当初は、棚田の基盤整備を強く望む人と、美しい石積みの棚田を残す派に分かれており、行政の指導は整備を強く進めていて、地元の声を無視するような行為があり、今日集落が一つにまとまらない原因の一つになったとの話をされました。

田口謙氏は、現NPO法人の理事長として、NPO法人発足の経過と今後の課題について発表されました。今後の課題として、①石積みの保全をどうするか。②都市住民との交流をどうすすめるか。③棚田ブランド品の開発をするにはどうするか。④多様な後継者の確保をどうするか。等々の問題提起をされました。

田口謙氏は、現NPO法人の理事長として、NPO法人発足の経過と今後の課題について発表されました。今後の課題として、①石積みの保全をどうするか。②都市住民との交流をどうすすめるか。③棚田ブランド品の開発をするにはどうするか。④多様な後継者の確保をどうするか。等々の問題提起をされました。

シンポジウムアンケート結果（回答14名）

1. 性別：□男 11 □女 3
2. 年齢：□20代 1 □30代 2 □40代 3 □50代 1 □60代 5 □70代 2
3. お住まいの地域：□中野方町 6 □その他 8（上矢作、東白川、可児市、関市、名古屋市、河合、正家）
4. シンポジウムについての感想：□良かった 10 □ふつう 3 □悪い 1
5. シンポジウムに参加して、保存会への活動をご理解いただけましたか？
□理解できたし、今後は（今後も）かかわっていききたい 7
□理解できたので、応援したい 6
□よくわからなかった 1

第19回全国棚田（千枚田）サミット



坂折棚田から22人参加しました。

去る11月8日（金）～9日に、和歌山県有田川町で、19回目の棚田サミットが開催されました。当坂折棚田で開催されたのが第9回でしたので、満10年を経過したことになります。

ります。

テーマ「人、まち、棚田ともに未来へ」で

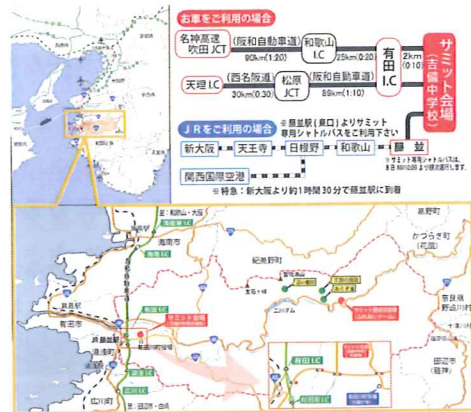
8日の早朝5時に、中野方コミュニティセンターを大型バスで出発、有田川の開催会場に午前11時30分につきました。

昼食後13時から、基調講演講師青柳健二氏が、世界の棚田と日本の棚田を写真で紹介し、それぞれの特徴を説明されました。日本の棚田の紹介の中に、坂折棚田の夜景写真2枚がありました。



田毎の月的な映像でした。坂折棚田は、日本の代表的な棚田の一つですとのお話でした。参加者一同大変嬉しいことでした。

今回のサミットで、新しいことは、18ヶ所の棚田保存会の代表者（各2名）の話し合いがもたれたことです。各保存会の悩みや、その解決策の事例発表があり、参考になりました。



坂折棚田の田毎の月

分科会は、第1分科会「棚田と文化的景観保全のあり方、取り組み」

第2分科会「梯田（棚田・段々畑：条件不利地域における土地利用）の意義と保全」

第3分科会「棚田保全活動を契機とする地域活性化・地域づくり」

第4分科会「学生ボランティアと地域による棚田保全への取り組み」

が行われ、18時から全体交流会、懇親会があり、各保存会の方々と親しく交流ができました。

次年は、山形県上市市で10月23日、24日に実施されます。会員の皆様多数の参加を望みます。

9日は、有田川町の棚田現地見学です。

ここの棚田で全国的に有名なのは、^{あらぎじま}蘭島です。（写真参照）



第8回石積み塾開催

1月23日～24日、棚田の景観保全と石積みの技術伝承を目的とする「石積み塾」が開かれました。本年度で8回目となります。今年は、8人の方が塾生として参加されました。新たに、中山秀信さん、神谷栄一さん、鈴木直さん、鈴木博義さんの4人が石積技工士に認定され、計5人となりました。「石積み技工士」は、塾生として5回以上参加するか、塾長が技を認めると認定されます。



お知らせ

○平成26年度 2014年カレンダー出来ました。
今年からA2版になりました。今までの倍の大きさです。



棚田保全協力金

1部 1,000円 (送料込み)

【会員価格 700円】

当保存会事務所取り扱っています。

会員の皆様には1人1部以上の協力をお願い申し上げます。

申込みは、なるべくFAXでお願いします。

FAX 0573-23-2046です。

○年賀状は、1枚70円です。(送料は別途いただきます)

写真は、春の棚田です

○「坂折棚田物語」写真集も好評販売中です。おみやげに、美しい棚田を多くの方に紹介し、棚田保全にご協力下さい。



○炭焼き塾塾生募集

平成26年1月11日(土)第5回炭焼き塾を開催します。

参加費 1人5,000円

申込みは平成26年1月10日までです。FAXでお願いします。

編集後記

坂折棚田周辺の山道は、散った紅葉で、地面が襖絵のような美しい模様で彩られています。2013年も押し詰まってきましたが、保存会の活動も、石積み塾まで無事終わることができました。年内は、残すところ、東京ビッグサイトで12月12日～14日にひらかれるエコプロダクツ2013への出展のみとなりました。今年も、伊豆大島などの自然災害が多い年でしたが、坂折では大きな災害にみまわれることは無く過ごすことができました。来年も良い年でありますよう、皆様のご多幸を祈念いたします。

NPO法人恵那市坂折棚田保存会 電話:0573-23-2032 * FAX:0573-23-2046 * 携帯:080-1553-0315

E-mail: sakaori-tanada@ia1.itkeeper.ne.jp ホームページ : 坂折棚田

検索